

令和元年6月26日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04478

研究課題名(和文) 中等教育学校におけるコンピテンシー志向の授業づくりに関する理論的・実証的研究

研究課題名(英文) Theoretical and Empirical Study on Competency-oriented Lesson Study in Secondary Schools

研究代表者

吉田 成章 (Yoshida, Nariakira)

広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：70514313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は次の二点にまとめることができる。第一に、コンピテンシー志向のカリキュラム改革に先進的に取り組んでいるドイツの動向を整理することができた点である。ドイツでは、コンピテンシー概念を取り入れたカリキュラム改革のもと、子どもたちが自分自身のコンピテンシー段階を自己評価できるような実践的取組に着手してきていることを明らかにした。第二に、中学校および高等学校におけるコンピテンシー志向の授業実践の開発研究に着手することができた点である。学校毎に「資質・能力」を独自に開発し、それを一つの単元・授業に落とし込みながら、子どもたち自身による自己評価を軸とした授業づくりの意義を明確にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「コンピテンシー志向」で進められてきているドイツにおけるカリキュラム改革と授業改革を、理論的且つ実践的に明らかにした点に本研究の学術的意義がある。「資質・能力」を明確にしつつ学校教育実践および校内研修と連動した開発的実践に着手した点に、本研究の社会的意義がある。学術的研究活動および社会的実践活動のどちらも、学会での発表あるいは研究論文による公開によって、研究成果を公的に発信することができた点も本研究を遂行することができた重要な意義である。

研究成果の概要(英文)：The results of this study could be summarized in the following two points. At first, I clarified the trends of "competency-based(Kompetenz-basierte)" Curriculum reform in Germany. In Schools of Germany, children have started practical efforts to enable self-evaluation of their own competencies. The second point is that this study could develop and research competency-based teaching and learning in junior and senior high schools. By developing School own "competencies" independently and dropping it into individual teaching units and classes. The developing praxis showed that the significance of creating classes based on self-evaluation by children themselves.

研究分野：教育方法学

キーワード：コンピテンシー 授業研究 ドイツ 中等教育学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

OECDの提起した「キー・コンピテンシー」や「21世紀型スキル」は、「育成すべき資質・能力」として「日本型資質・能力枠組み」を通して国家的な教育課程の基準のあり方にも影響を与えつつある。他方で、各県の教育改革プランの中にも位置づけられながら、学校教育実践にも間接的に影響を与えつつある。ここで「コンピテンシー」は、特定の状況下における課題解決のための認知的能力だけではなく、情意的・社会的能力も含んだ概念として理解されている。しかしながら、学習指導要領の改訂に伴って、各学校はそれぞれ「資質・能力」を学校カリキュラムの中に位置づけ、その構想に基づく授業の実践と検証を行う必要がある。

2．研究の目的

本研究の目的は、コンピテンシーの育成にむけた授業づくりの理論的構造を、授業実践の実証研究を通して明らかにすることである。その際に焦点化するのは、高等学校を中心とした中等教育学校における授業づくりである。「コンピテンシー」を鍵概念とした授業づくりは、理論的・実証的なカリキュラム研究に支えられる必要がある。そのため本研究では、「コンピテンシー志向」の授業づくりにいち早く取り組んできているドイツ教授学の研究蓄積の批判的な検討、および中等教育学校における授業研究を軸とした授業づくりの実証的検討を通して、研究を遂行する。

3．研究の方法

第一に、ドイツのカリキュラム改革および教授学議論の批判的検討を通して、カリキュラムにおける「コンピテンシー」の位置づけを理論的に明確にする。さらに第二に、「コンピテンシー志向」を具体化する「学習課題」を視点とした中等教育学校における授業づくりのあり方を実証的に明らかにする。

4．研究成果

本研究の成果は次の二点にまとめることができる。

第一に、コンピテンシー志向のカリキュラム改革に先進的に取り組んでいるドイツの動向を整理することができた点である。ドイツでは、コンピテンシー概念を取り入れたカリキュラム改革のもと、子どもたちが自分自身のコンピテンシー段階を自己評価できるような実践的取組に着手してきていることを明らかにした。

第二に、中学校および高等学校におけるコンピテンシー志向の授業実践の開発研究に着手することができた点である。学校毎に「資質・能力」を独自に開発し、それを一つ一つの単元・授業に落とし込みながら、子どもたち自身による自己評価を軸とした授業づくりの意義を明確にした。

上記二点に関わるドイツの研究動向および実践動向は、図書および論文にて公刊している。また、わが国における授業実践の開発研究についても、共同研究校の研究紀要および図書・学術論文においてもその成果を公開している。今後の展望と課題としては、「コンピテンシー志向」のもとで加速する教育改革をどのように捉えていくのかという点に関わって、引き続き国内外の動向を視野に検討していくことが求められる。また教育実践のレベルにおいても、「コンピテンシー」あるいは「資質・能力」を志向する教育実践の多様な展開のあり方を模索するとともに、その実践的意義と課題を検証していくという課題が残されている。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8件)

吉田成章「ドイツにおけるコンピテンシー志向の授業づくりの動向と課題」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)第64巻、2019年、495-500頁、査読無。

Nariakira Yoshida, Nami Matsuo, Mitsuru Matsuda, Yuichiro Sato, Analysis and Interpretation of lessons with the Collaboration between University and School: Historical approach to the Lesson Study in Japan and a Case Study for the integrated perspectives, "Bulletin of the Graduate School of Education, Hiroshima University Part (Education and Human Science)" Vol. 67, 2018, pp.27-36、査読無。

DOI: <http://doi.org/10.15027/46804>

吉田成章「現代ドイツにおけるカリキュラム改革 教育の自由はどのように守られているか」広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第24巻、2018年、115-122頁、査読無。

DOI: <http://doi.org/10.15027/45465>

吉田成章、赤星まゆみ、山本ペバリーアン、高橋洋行「EU諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』第66号、2017年、31-40頁、査読無。

DOI: <http://doi.org/10.15027/44804>

吉田成章「戦後教育学研究における東ドイツ教育学の受容と展開」中国四国教育学会編『教育学研究ジャーナル』第20号、2017年、71-77頁、査読無。

吉田成章「ドイツにおける健康教育実践に関する一考察」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版)第62巻、2017年、465-470頁、査読無。

吉田成章・松田充・佐藤雄一郎「中学校・高等学校におけるアクティブ・ラーニングの類型と実践的課題」広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第23巻、2017年、57-64頁、査読無。

DOI: <http://doi.org/10.15027/42773>

吉田成章「PISA後ドイツのカリキュラム改革におけるコンピテンシー(Kompetenz)の位置」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』第65号、2016年、29-38頁、査読無。

DOI: <http://doi.org/10.15027/41645>

〔学会発表〕(計 10件)

Maria Hallitzky, Nariakira Yoshida, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Asuka Matsuura, Marika Yamane, Kazuhisa Ando, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Stephan Weser, Gereon Eulitz, Johanna Leicht, Karla Spendrin, Teacher Questions in the Context of Individualization and Collectivization in Lessons: Intercultural Dialogue on Methodology of Case Reconstruction between Germany and Japan, WALIS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2018, 25 November 2018, Beijing Normal University

Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Takuya Hisatune, Ting Ban, Shohei Fukami, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Yinan Li, Takahiro Umeda, Maho Yodozawa, Xinhui Zhou, Asuka Matsuura, Sho Ueda, Yu Yamamoto, "Lesson Study" as Preparing Future Faculty Development for Teacher Educator: A Case Study on the Certificate Program for

Preparing Future Faculty in Teacher Education in Hiroshima University, WALs(The World Association of Lesson Studies) Conference 2018, 24 November 2018, Beijing Normal University

吉田成章「ドイツにおけるコンピテンシー志向の授業づくりの動向と課題」

中国四国教育学会第 70 回大会、島根大学、2018.11.18、口頭。

Übersetzungsverhältnisse: Praktiken der Individualisierung und Vergemeinschaftung in transkulturellen Perspektivierung, Maria Hallitzky, Nariakira Yoshida, Tilman Grammes, Christian Herfter, Johanna Leicht, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Mitsuru Matsuda, Asuka Matsuura, Marika Yamane, Kazuhisa Ando, Gereon Eulitz, Karla Spendrin, Emi Kinoshita, Jahrestagung der Kommission Schulforschung und Didaktik der DGfE, 11.9.2018, Universität Flensburg

Individualism and Collectivism in Classes. Comparative Analysis of Lessons in Germany and Japan, Nariakira Yoshida, Maria Hallitzky, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Johanna Leicht, Karla Spendrin, WALs(The World Association of Lesson Studies) Conference 2017, 25 November 2017, Nagoya University

吉田成章「現代ドイツのカリキュラム改革 教育の自由はどのように守られているか」

日本カリキュラム学会第 28 回大会課題研究、岡山大学、2017.6.25、口頭。

吉田成章「ドイツにおける健康教育実践に関する一考察」

中国四国教育学会第 68 回大会、鳴門教育大学、2016.11.6、口頭。

吉田成章「戦後教育学研究における東ドイツ教育学の受容と展開」

中国四国教育学会第 68 回大会公開シンポジウム、鳴門教育大学、2016.11.5、口頭。

Nariakira Yoshida, Nami Matsuo, Mitsuru Matsuda, Yuichiro Sato, Analysis and Interpretation of lessons with the Collaboration between University and School: Historical approach to the Lesson Study in Japan and a Case Study for the integrated perspectives. The World Association of Lesson Studies International Conference 2016, University of Exeter in UK 3-5 September 2016

赤星まゆみ、山本ベバリーアン、吉田成章、高橋洋行「EU 諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向」

日本カリキュラム学会第 27 回大会、香川大学、2016.7.3、口頭。

〔図書〕(計 6 件)

吉田成章・安喰勇平・都田修兵・増田圭佑・松尾奈美・岡村美由規・正木遥香・松田充・藤村晃成・相馬宗胤・山田直之・佐藤雄一郎『『先生の先生になる』ための教育プログラムの現状と課題』丸山恭司・尾川満宏・森下真実編『教員養成を担う「先生の先生になる」ための学びとキャリア』溪水社、2019 年、117-138 頁(総 203 頁)。

Nariakira Yoshida: Didaktische Forschung und pädagogische Praxis nach und in Zeiten der Wende. In: Katja Grundig de Vazquez/ Alexandra Schotte(Hrsg.): Erziehung und Unterricht-Neue Perspektiven auf Johann Friedrich Herbart's Allgemeine Pädagogik. Paderborn: Verlag Ferdinand Schöningh, 2018, 149-156 (総 246 頁)

深澤広明・吉田成章編『学習集団研究の現在 Vol.2 学習集団づくりが描く「学びの地図」』溪水社、2018 年、総 161 頁。

吉田成章「第 3 章 なぜ教科で学ぶのか？」小川佳万・三時真貴子編著『「教育学」ってど

んなもの?』協同出版、2017年、37-52頁(総183頁)。

ハンナ・キーパー、吉田成章編『教授学と心理学との対話 これからの授業論入門』溪水社、2016年、総211頁。

深澤広明・吉田成章責任編集『学習集団研究の現在 Vol.1 いま求められる授業づくりの転換』溪水社、2016年、155頁。